



水筒に潜む危険性

9月ももうすぐ終わろうとしています。まだまだ日中の暑さは続きます。子供たちも首や肩から水筒を下げて登校している様子が見られます。しかし、この水筒が思わぬ事故につながっているケースがあると、消費者庁・国民生活センターが呼びかけています。小学生に身近な水筒ですが、肩から掛けることで、命に関わる重大な事故になる可能性があるとして消費者庁が呼びかけています。以下は、消費者庁・国民生活センターに寄せられた、水筒が原因で起きた事故の報告です。

○「水筒(1リットルの容器)を斜め掛けにして歩いていたところ坂道で転倒し、地面と水筒に挟まれる形で腹部を強打した。脾臓のため集中治療室に入院し、保存加療で10日後に退院した。」(9歳)

○「通学中に友人と追いかけてこをしていたところ転倒し、斜め掛けしていた水筒が腹部の右側に当たった。痛みと嘔吐があり救急搬送され、小腸破裂、汎発性腹膜炎のため緊急手術の上、集中治療室に入院した。」(10歳)

○「登校中、走っていたところ硬い土の場所ですでつまずいて転倒した。その際、首から提げていた水筒が、地面とお腹の間に挟まり、腹部を強打した。内臓損傷により、脾臓50%程度及び脾臓を摘出した。」(7歳)

水筒を斜め掛けにする機会が多いことに加えて、子供は転倒しやすく、転倒した際に反射的に手をつくといった動作がとりにくい等の特徴があります。また、子供は大人に比べて腹部臓器の占める割合が大きいこと、内臓脂肪が少なく筋力も弱いこと、衝撃を受けやすいことなどを、日本小児科学会は指摘しています。

子供に水筒を持ち歩かせるためには以下のポイントに注意しましょう。

○水筒はなるべくリュックサック等に入れましょう

○水筒を首や肩に掛けているときに走らないようにしましょう

○遊具等で遊ぶ場合は、水筒を置いて遊ぶようにしましょう

熱中症予防では水筒が大いに役立ちますが、そこには思わぬ危険が潜んでいます。水筒をもち歩いて転んだ時の危険性について、おうちでも話し合われてください。



テレビの見過ぎに気を付けて!

千葉大などの研究チームは19日、テレビやDVDなどを見る時間が長い幼児ほど、発達に遅れが出ると発表しました。1歳~2歳ではコミュニケーション能力、2歳~3歳では、体を使った運動や手先の器用さなどに発達の遅れが確認できたといいます。研究は、環境省が2010年度から全国10万組の親子に実施した「子どもの健康と環境に関する全国調査」のデータを活用したそうです。海外の研究でも2歳~5歳児で似た結果が出ているそうです。

一方で、子供の発達を促すものの一つとして、読み聞かせが挙げられています。

